

青森県埋蔵文化財調査報告書 第496集

太田野(3)遺跡 II

—一般国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2011年

青森県教育委員会

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から一般国道4号七戸バイパス建設事業予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を進めてきました。これまでに発掘調査した遺跡は、倉越(2)遺跡・大池館遺跡・大沢遺跡・寒水遺跡・太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡・太田(1)遺跡・太田(2)遺跡・北野(1)遺跡・北野(2)遺跡の10遺跡で、発掘調査報告書もその都度刊行しております。

このうち、太田野(3)遺跡については平成17年度に発掘調査を実施しており、今回が二度目の発掘調査です。今回の調査の結果では、縄文時代に属する円形の土坑や落とし穴と思われる溝状土坑が検出され、前回の調査とほぼ同様の事実が確認されました。

本報告書は、平成21年度の発掘調査事業の成果をまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている国土交通省青森河川国道事務所に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成23年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 新岡 嗣 浩

例 言

- 1 本書は、国土交通省青森河川国道事務所による一般国道4号七戸バイパス建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成21年度に発掘調査を実施した七戸町太田野(3)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は1,650㎡である。
- 2 太田野(3)遺跡の所在地は、青森県上北郡七戸町字太田野106-2、青森県遺跡番号は、402087である。
- 3 太田野(3)遺跡の発掘調査報告書は、当該事業に伴って既に1冊刊行されており、本書は2冊目となる。
- 4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した国土交通省青森河川国道事務所が負担した。
- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下の通りである。

発掘調査期間	平成21年9月8日～平成21年9月30日
整理・報告書作成期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
- 6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センターの畠山昇が担当した。
- 7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

石器の石質鑑定	日本地質学会会員 松山 力
遺物の写真撮影	シルバーフォト、スタジオエイト
- 8 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 9 本書に掲載した地形図(遺跡位置図)は、国土地理院発行の地形図(5万分の一:七戸・三沢・十和田・八戸、2万5千分の一:七戸・三沢)を複写・加工して掲載した。
- 10 発掘調査における測量原点の座標値は、旧日本測地系(Tokyo Datum)に基づく平面直角座標第X系に準じており、挿図中の北方位は座標北を示している。
- 11 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺構に使用した略号は、土坑はSK、溝状土坑はSVである。
- 12 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 13 遺構実測図の縮尺には各挿図ごとにスケールを示した。
- 14 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。
- 15 基本土層・遺構内堆積土層の色調表記等には、『新版標準土色帖 2005年度版』(小山正忠・竹原秀雄)を使用した。
- 16 遺物実測図には、挿図毎に1から通しの図番号を付し、各挿図毎にスケールを示した。
- 17 遺物写真には、遺物実測図と共通の図番号を付した。なお、遺物写真の縮尺は統一していない。

目 次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査の経過	4
第2章 調査の成果	6
第1節 調査成果の概要と基本層序	6
第2節 検出遺構	8
第3節 出土遺物	13
第3章 まとめ	18
写真図版	19
報告書抄録	23
図版目次	
図1 遺跡位置図	2
図2 調査区域図	3
図3 基本層序	6
図4 遺構配置図	7
図5 検出遺構(1)	11
図6 検出遺構(2)	12
図7 土器破片の出土分布	13
図8 石器(含剥片)の出土分布	13
図9 土 器	14
図10 古銭・鉄製品	15
図11 石 器	16

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

一般国道4号七戸バイパスは、十和田市と七戸町を結ぶ延長5.7km、幅員28.0m（暫定14.5m）のバイパス道路である。七戸町内の交通混雑や隘路区間の解消、冬期の安全の確保、沿道環境の改善を目的に計画された事業である。平成元年度に事業着手され、平成16年度から工事が行われ、平成20年3月24日には延長2.9kmの区間が部分的に供用されている。

当該事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いをめぐるには、県教育庁文化財保護課・国土交通省青森河川国道事務所・七戸町の三者間での協議が行われ、平成15年度から青森県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなった。これを受けて青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成15年度から20年度にかけて倉越(2)遺跡・大池館遺跡・大沢遺跡・寒水遺跡・太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡・太田(1)遺跡・太田(2)遺跡・北野(1)遺跡・北野(2)遺跡の発掘調査を実施し、発掘調査報告書もその都度刊行してきた。このうち太田野(3)遺跡については、平成17年度に本発掘調査が行われたものの、用地交渉が難航していたために一部の区域を調査することができなかった。今回の発掘調査は、この区域が調査の対象となったもので、平成21年9月8日から10月28日までの予定で発掘調査が行われることとなった。

第2節 調査の方法

1 発掘作業の方法

発掘調査の方法は、基本的には平成17年度のものに準拠して行った。また、平成17年度の発掘調査成果から今回の調査対象区域における遺構・遺物の発見が希薄であることが予想されたため、重機を併用して掘削の省力化を図った。

<測量基準点・水準点の設置・グリッド設定>

測量基準点及び水準点の設置は、事業者側が設置した工事用の測量杭を利用して行った。グリッドの設定は工事用杭の測量データを基に平成17年度調査のものを復元し、当時のグリッドと一致させて使用した。ちなみに、平成17年度におけるグリッドの設定は国土交通省公示の平面直角座標系X系（旧日本測地系）のX=76,900、Y=28,300を原点IA-0とし、X軸は北方向を正として、Y軸は東方向を正として4mごとのグリッドを設定している。すなわち、X軸はローマ数字（Ⅰ～Ⅶ）とアルファベット（A～Y）の組み合わせで正方向にIA・IB・・・IY・IIA・IIB・・・と呼称し、Y軸は正方向に1・2・3・・・と呼称した。これによるグリッドの呼称は軸線の南西隅の交点を用いている。

<表土等の調査>

表土から十数cmの深さまでを重機を用いて掘削し、ここから遺構確認面までは人力による掘削とした。出土した遺物は、適宜グリッド毎、層位毎に取り上げた。

<遺構の調査>

検出遺構は確認順に種類別の番号を付けて調査した。発掘調査で検出した遺構は土坑（SK）と溝状土坑（SV）である。遺構の精査は二分法で行った。堆積土層には算用数字を付けてローマ数字を付した基本土層と区別した。遺構の平面図は、「遺構実測支援システム」（CUBIC社製）を用いて、

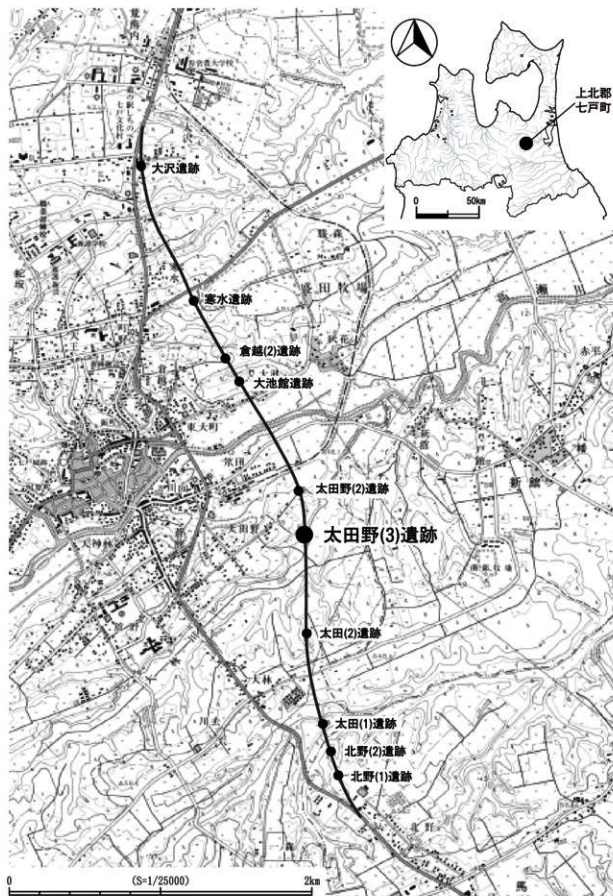


図1 遺跡位置図

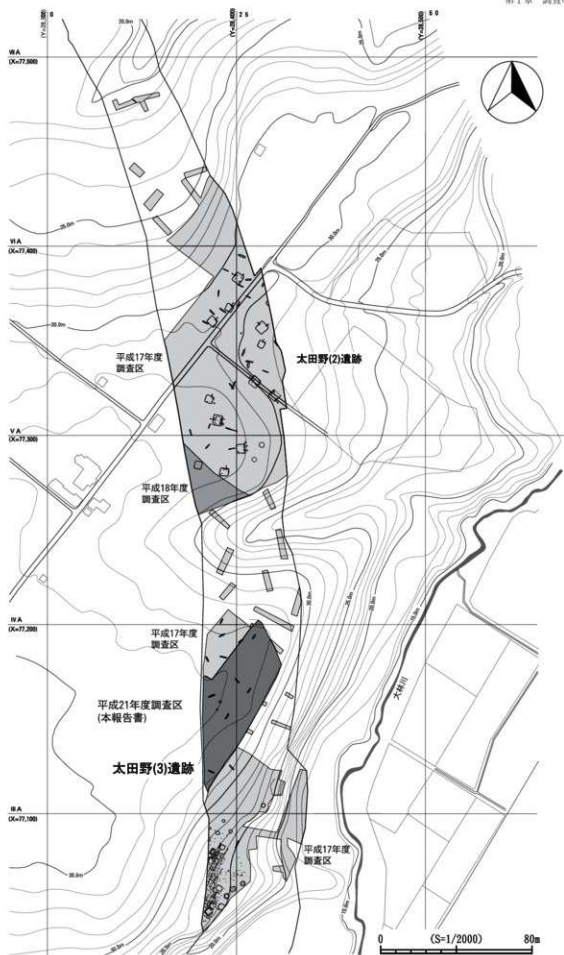


図2 調査区域図

トータルステーションによる測量を行ったが、遺構断面図は簡易遣り方測量で縮尺1/20の実測図を作成した。

遺物包含層の調査では上層から層位的に人力で掘削した。出土した遺物は適宜グリッド毎、層位毎に取り上げた。

<写真撮影>

35mmモノクローム及びカラーリバーサルフィルム及び1600万画素のデジタルカメラを併用し、必要に応じて発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の精査状況、完掘後の全景等を記録した。

2 整理・報告書作成作業の方法

遺構の平面図はトータルステーションによる測量を行ったので、整理作業ではこれを基本として図化し、遺構図版を作成した。また、遺構配置図は今回の調査区と平成17年度の調査成果と合成して作成し、掲載することとした。

写真類の整理では、35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、遺構ごとの検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けて保存した。

遺物の注記は、調査年度・遺跡名・遺構名・層位等を略記したが、剥片石器、鉄器、古銭等の直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。

遺物の写真撮影は業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感、雰囲気、製作技法、文様表現等を伝えられるように留意した。

第3節 調査の経過

1 発掘作業の経過

平成21年度の太田野(3)遺跡発掘調査は、調査委託者の要望に応じて、調査対象面積1,650㎡を対象として実施することになった。当初予定していた発掘作業期間は9月8日から10月28日までであったが、9月中旬には予定より早く終了する見通しがあったため、9月30日で発掘調査を終了した。発掘調査体制及び発掘作業経過は以下の通りである。

○発掘調査体制

調査主体	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所長	新岡嗣浩
	次長	工藤 大(平成22年3月退職)
	総務GM	木村繁博
	調査第二GM	畠山 昇(発掘調査担当者。現次長)
	文化財保護主幹	三浦一範(発掘調査担当者。現平内町立東小学校教諭)
	調査補助員	林 啓太(平成22年3月退職)

専門的事項に関する指導・助言

調査指導員 村越 潔 国立法人弘前大学名誉教授（考古学）

調査員 佐々木辰雄 青森県立八戸南高等学校教諭（地質学）

○発掘作業の経過

発掘作業期間が短いことや発掘調査の効率を図るために、平成17年度に行われた発掘調査の成果を参考にして、表土の掘削は重機を用いて行う計画をたてた。

- 8月5日 国土交通省青森河川国道事務所、青森県教育庁文化財保護課と太田野(3)遺跡の発掘調査前の打合せを調査現場で行い、発掘作業の進め方について確認した。
- 8月10日 太田野(3)遺跡の発掘作業員雇用予定者に対し、雇用説明会を開催した。
- 8月下旬～ 発掘調査にかかる各種の準備作業を行った。
- 9月上旬
- 9月3日 事業者側による重機を用いての表土掘削の立ち会いと事務所等の仮設建物設置の立ち会いを行った。
- 9月8日 現地に調査機材等を搬入し、本格的に発掘調査を開始した。遺物包含層での掘削は人力で行い、早めに遺構を確認するように作業を進めていった。溝状土坑を検出、第1号溝状土坑とした。
- 9月9日 チェンソー、グラインダー、草刈機等の調査器材の取扱いに関する安全衛生特別講習を実施した。グリッド杭の設置を行った。
- 9月中旬 予定より早く終了する見通しがついたため、9月30日で発掘調査を終了することになった。
- 9月30日 調査器材・出土品等を埋蔵文化財調査センターへ運搬し、発掘調査を終了した。
- 11月4日 所轄の警察署に、文化財保護課から遺物発見届けを提出した。

2 整理・報告書作成作業の経過

報告書刊行事業は平成22年度に実施することとなったが、写真類の整理は平成21年度中に終了している。これ以外の整理作業については、平成22年4月から平成23年3月にかけて行った。検出遺構の図面修正や出土遺物等に関する基礎的な整理作業は12月中に終了し、翌年の1月に図版を作成した。報告書掲載遺物の写真撮影は業者に委託して12月上旬に行った。2月上旬には、原稿・版下等が揃ったので、報告書の割付・編集を行った。2月10日、印刷業者を選定し、原稿を入稿した。

第2章 調査の成果

第1節 調査成果の概要と基本層序

本遺跡は大林川に面した標高17～33mの河岸段丘上に位置し、北側には太田野(2)遺跡が隣接している。平成17年度の発掘調査では、未買収区域（今回の調査区域）を境にして北側区域と南側区域とに分けて調査が行われている。北側区域は段丘頂部にあたるほぼ平坦な地形で、縄文時代の溝状土坑が6基発見されている。また、南側区域は大林川に面する標高24～31mの緩傾斜地で、縄文時代の溝状土坑1基と中世の発穴建物跡5棟、土坑14基、溝跡3条、焼土3基、掘立柱建物跡8棟、柵跡6列が発見されている。

今回の調査は平成17年度の発掘調査で調査できなかった未買収区域が対象であるが、調査の結果、縄文時代の土坑2基と溝状土坑6基を検出した。また、出土遺物は縄文時代の土器・石器が段ボール箱2箱分のほか、古銭、鉄製品が各1点出土した。

基本層序

平成17年度の調査に準じており、その概要は以下の通りである（『太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡』第427集から抜粋）。

第I層 黒色土（耕作土）。

第II層 黒色土で、径1mm以下の岩片や黄褐色の軽石、中粒径石をごく少量含む。

第III層 中粒径石層で、黒色土に灰褐色の細粒軽石を含む。

第IV層 黒色土で、径が数mmの黄褐色の軽石を微量含む。

第V層 黒色土で、径が数mmの褐色の軽石を微量と、径が10mm程度の円礫も少量含む。

第VI層 黒色土で、径が3mm以下の軽石を微量含む。

第VII層 黒色土の中に赤褐色の細粒軽石を含み、全体に褐色を帯びている。

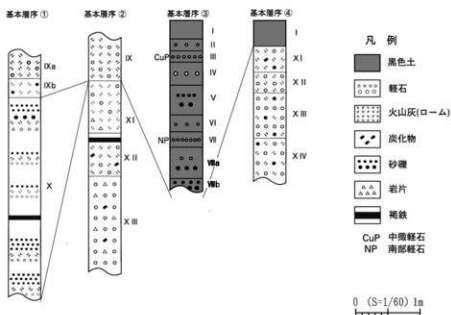


図3 基本層序

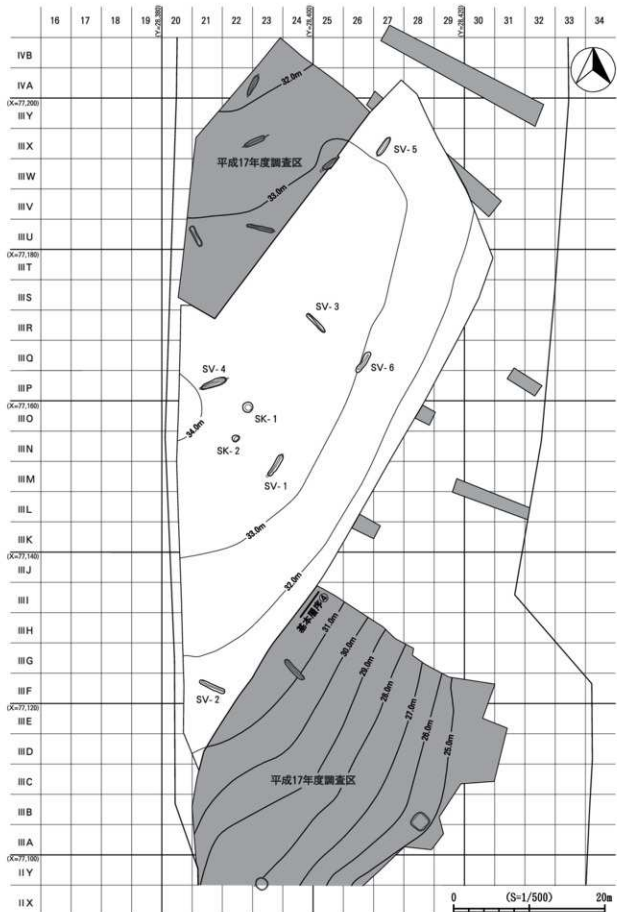


図4 遺構配置図

第Ⅷa層 黒色土中に径が3mm以下の軽石を微量含む。また下部には径が30mm以下の円礫を含む。

下部層から漸移している。

第Ⅷb層 黒色土と砂礫の混合層。

第Ⅸ層 粘土質の褐色火山灰の二次堆積層。

第Ⅹ層 厚さが10cm未満の砂礫と黄褐色の軽石の十数枚からなる互層。上部は礫質。

第Ⅺ層 におい黄褐色の火山灰層。

第Ⅻ層 におい黄褐色の火山灰層。

第Ⅼ層 灰黄褐色の火砕流の二次堆積物。

平成17年度調査の北側区域では第Ⅱ層から第Ⅹ層までが欠層しているとのことであったが、今回の調査でもそのことが確認できた。なお、基本層序の確認が遅れたため、遺物の取り上げは、便宜的に第Ⅰ層(表土)、第Ⅱ層、第Ⅲ層(Ⅺ層)として取り上げている。

第2節 検出遺構

1 土坑

第1号土坑(SK-01)

[位置] ⅢO-22グリッドに位置している。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、確認面での規模は長軸1.37m、短軸1.35m、深さ0.48mである。

[壁・底面] 壁は底面からなだらかに立ち上がっている。底面は長軸87cm、短軸76cmの楕円形を呈し、ほぼ平坦である。

[堆積土] 5層に分層できた。壁際に明黄褐色土の堆積がみられるものの堆積土の大半は黒褐色土である。

[出土遺物] 縄文時代の土器破片1点(15.4g)と剥片2点(32.5g)が出土した。土器破片は器面が摩滅しているため、施文文様等は不明である。

第2号土坑(SK-02)

[位置] ⅢN-22グリッドに位置している。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈し、確認面での規模は長軸1.04m、短軸0.89m、深さ0.40mである。

[壁・底面] 西壁は緩やかに立ち上がっているが、他の壁は垂直に近い立ち上がりである。底面は長軸0.66m、短軸0.39mの楕円形を呈し、ほぼ平坦である。

[堆積土] 3層に分層できた。西側上部に柔らかな黒色土、底面付近には黄褐色土の堆積がみられるが、堆積土の大半は暗褐色土で占められている。

[出土遺物] 縄文時代の土器破片1点(12.2g)と剥片8点(73.1g)が出土した。土器破片は器面が摩滅しているため、施文文様等は不明である。

2 溝状土坑

第1号溝状土坑 (SV-01)

[位置] III M・III N-23グリッドに位置している。

[規模] 確認面での規模は長軸3.25m、短軸0.57～0.74mで、深さ1.22mである。底面の規模は長軸3.72m、短軸0.13～0.16mである。

[壁・底面] 長軸両端の壁は袋状に掘り込まれていて、底面は開口部より広がっている。短軸の壁は垂直に掘り込まれ、底面幅は狭い。短軸断面はV字状を呈している。

[堆積土] 8層に分層できた。上位には暗褐色土、黒褐色土があり、中位には褐色土や黄褐色土、下位には黒褐色土と黄褐色土の堆積がみられた。

[出土遺物] なし。

第2号溝状土坑 (SV-02)

[位置] III F-21・22グリッドに位置している。

[規模] 確認面での規模は長軸3.60m、短軸0.65mで、深さ1.36mである。底面の規模は長軸1.36m、短軸0.16mである。

[壁・底面] 各壁ともほぼ垂直に掘り込まれている。底面は西端から中央付近までは1.10～1.20mの深さがあるが、ここから東側へ徐々に深く掘り込まれ、東端では1.36mの深さとなっている。短軸断面はV字状を呈している。

[堆積土] 11層に分層できた。上位では黒色土や黒褐色土、中位では黄褐色土や褐色土、下位では暗褐色土と黄褐色土の堆積がみられた。

[出土遺物] なし。

第3号溝状土坑 (SV-03)

[位置] III R-24・25グリッドに位置している。

[規模] 確認面での規模は長軸3.35m、短軸0.52mで、深さ1.57mである。底面の規模は、長軸3.20m、短軸0.14mである。

[壁・底面] 各壁ともほぼ垂直に掘り込まれているが、長軸端の底面は両端ともやや袋状に掘り込まれている。短軸断面はV字状を呈している。

[堆積土] 10層に分層できた。全体に黄褐色土と褐色土が主体となっているが、中央下半と最下部には、脆く崩れやすい暗褐色土（第7層）と黒色土（第10層）が堆積している。

[出土遺物] なし。

第4号溝状土坑 (SV-04)

[位置] III P-21・22グリッドに位置している。

[規模] 確認面での規模は、長軸3.60m、短軸0.98mで、深さ1.42mである。今回検出したなかでは、もっとも幅が広い。底面の規模は長軸4.10m、短軸0.20mである。

[壁・底面] 長軸両端の壁は袋状に掘り込まれている。長軸の中央付近がもっとも深く、両端に向かっ

て徐々に高くなっている。短軸断面はY字状を呈している。

[堆積土] 上部には黒褐色土や黒色土、暗褐色土がみられるが、中位・下位では黄褐色土系のローム質土が主体となっている。

[出土遺物] なし。

第5号溝状土坑 (SV-05)

[位置] III X-27グリッドに位置している。

[規模] 確認面での規模は、長軸2.76m、短軸0.76mで、深さ1.48mである。底面の規模は、長軸3.08m、短軸0.32mである。

[壁・底面] 長軸の両端部は袋状に掘り込まれている。短軸壁は垂直に掘り込まれており、断面はV字状を呈している。

[堆積土] 7層に分層できた。全般にローム質の黄褐色土系の土が主体である。壁際には、壁の崩落土ないしは人為的に廃棄された黄褐色土の堆積がみられる。

[出土遺物] なし。

第6号溝状土坑 (SV-06)

[位置] III Q-26グリッドに位置している。

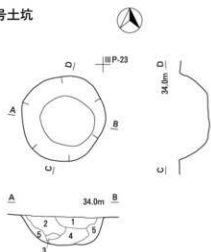
[規模] 確認面では、長軸3.13m、短軸0.75mで、深さ1.00mである。底面の規模は長軸2.42m、短軸0.23mである。

[壁・底面] 各壁ともほぼ垂直に近く掘り込まれている。短軸断面はV字状を呈している。

[堆積土] 6層に分層できた。第1層は黒褐色土、第2～6層は5層に分層したものの、暗褐色土や褐色土、黄褐色土等の混合土である。

[出土遺物] なし。

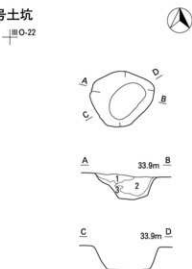
第1号土坑



第1号土坑 (SK-01)

第1層 10YR2/3 黒褐色土	柔らかく、締まりなし。
第2層 10YR3/3 暗褐色土	ローム土2%含有。
第3層 10YR4/4 褐色土	締まりあり。
第4層 10YR2/2 黒褐色土	堅く、締まりあり。
第5層 10YR6/6 明黄褐色土	粘性あり。

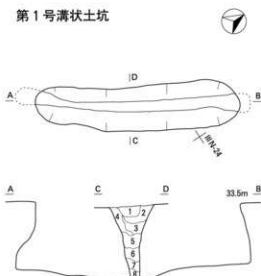
第2号土坑



第2号土坑 (SK-02)

第1層 10YR2/1 黒色土	柔らかい。
第2層 10YR3/3 暗褐色土	柔らかい。
第3層 10YR6/6 明黄褐色土	締まりあり。

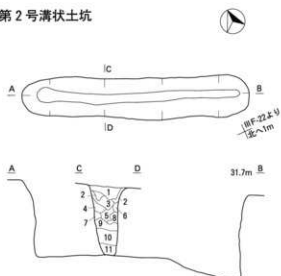
第1号溝状土坑



第1号溝状土坑 (SV-01)

第1層 10YR2/2 黒褐色土	シルト質。
第2層 10YR3/3 暗褐色土	柔らかい。
第3層 10YR4/6 褐色土	粘性ややあり。
第4層 10YR3/4 暗褐色土	粘性ややあり。
第5層 10YR4/6 褐色土	締まりややあり。
第6層 10YR5/6 黄褐色土	締まりあり。
第7層 10YR2/3 黒褐色土	柔らかい。
第8層 10YR5/6 黄褐色土	ローム質。

第2号溝状土坑



第2号溝状土坑 (SV-02)

第1層 10YR1/2 黒色土	柔らかい。
第2層 10YR3/2 暗褐色土	シルト質。
第3層 10YR4/2 褐色土	シルト質。
第4層 10YR4/6 褐色土	締まりややあり。
第5層 10YR4/3 に近い黄褐色土	粘性ややあり。
第6層 10YR5/6 黄褐色土	粘性ややあり。
第7層 10YR4/6 褐色土	ローム質。締まりあり。
第8層 10YR6/6 明黄褐色土	ローム質。締まりあり。
第9層 10YR4/4 褐色土	シルト質。
第10層 10YR3/3 暗褐色土	締まりあり。
第11層 10YR5/6 黄褐色土	ローム質。

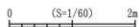
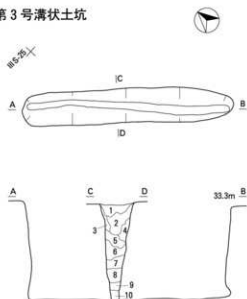


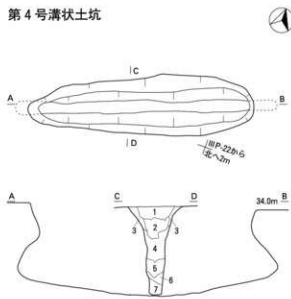
図5 検出遺構(1)

第3号溝状土坑



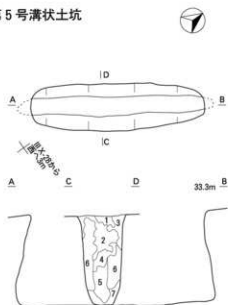
- 第3号溝状土坑 (SV-03)
- | | | | |
|------|----------|---------|---------------|
| 第1層 | 10 YR2/2 | 黒褐色土 | シルト質。 |
| 第2層 | 10 YR6/2 | 灰黄褐色土 | シルト質。 |
| 第3層 | 10 YR6/6 | 黄褐色土 | 粘性ややあり。 |
| 第4層 | 10 YR4/6 | 褐色土 | ローム質。締まりややあり。 |
| 第5層 | 10 YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 粘性あり。 |
| 第6層 | 10 YR6/6 | 褐色土 | 脆い。 |
| 第7層 | 10 YR3/4 | 暗褐色土 | やや脆い。 |
| 第8層 | 10 YR4/4 | 褐色土 | 粘性あり。 |
| 第9層 | 10 YR4/4 | 褐色土 | シルト質。 |
| 第10層 | 10 YR2/1 | 黒色土 | 非常に脆い。 |

第4号溝状土坑



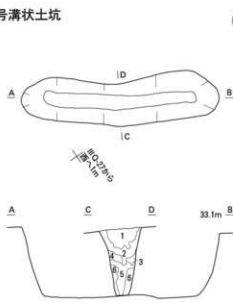
- 第4号溝状土坑 (SV-04)
- | | | | |
|-----|----------|---------|------------|
| 第1層 | 10 YR2/2 | 黒褐色土 | 粘性ややあり。 |
| 第2層 | 10 YR2/1 | 黒色土 | 締まりややあり。 |
| 第3層 | 10 YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性あり。 |
| 第4層 | 10 YR6/6 | 黄褐色土 | 粘性あり。 |
| 第5層 | 10 YR6/6 | 明黄褐色土 | 柔らかく、粘性あり。 |
| 第6層 | 10 YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 脆い。 |
| 第7層 | 10 YR6/3 | にぶい黄褐色土 | 堅く、締まりあり。 |

第5号溝状土坑



- 第5号溝状土坑 (SV-05)
- | | | | |
|-----|----------|-------|----------------|
| 第1層 | 10 YR2/1 | 黒色土 | 粘性ややあり。 |
| 第2層 | 10 YR3/3 | 暗褐色土 | 粘性ややあり。 |
| 第3層 | 10 YR6/6 | 黄褐色土 | ローム質。 |
| 第4層 | 10 YR6/6 | 明黄褐色土 | ローム質。 |
| 第5層 | 10 YR3/4 | 暗褐色土 | 脆く、崩れやすい。 |
| 第6層 | 10 YR6/6 | 黄褐色土 | ローム質。堅く、締まりあり。 |
| 第7層 | 10 YR6/6 | 明黄褐色土 | 粘性あり。 |

第6号溝状土坑



- 第6号溝状土坑 (SV-06)
- | | | | |
|-----|----------|---------|----------|
| 第1層 | 10 YR2/2 | 黒褐色土 | |
| 第2層 | 10 YR4/3 | にぶい黄褐色土 | |
| 第3層 | 10 YR7/4 | にぶい黄褐色土 | 締まりややあり。 |
| 第4層 | 10 YR3/4 | 暗褐色土 | |
| 第5層 | 10 YR4/6 | 褐色土 | シルト質。 |
| 第6層 | 10 YR6/6 | 黄褐色土 | 脆く、柔らかい。 |

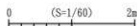


図6 検出遺構(2)

第3節 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、縄文時代の土器、石器が段ボール箱で2箱分のほか、古銭と鉄製品が各1点である。縄文時代の遺物は第1号土坑の北西側の区域から集中する傾向が見られたことから、この西側に縄文時代の遺構・遺物が広がっている可能性が考えられる。

1 土器

縄文時代の土器破片が少量出土した。破片数は83点(988g)であるが、小破片のものが大部分で、接合しない。土器破片の出土分布はまばらであるが、第1号土坑の北西側の区域から比較的多く出土した。出土土器には縄文時代早期と思われるものや、前期、中期のものがある。

縄文時代早期と思われる土器(図9-3)

R L縄文に結節回転文が見られる土器で、器面には条痕らしきものも見られるが、器内面には条痕や縄文は施文されていない。焼成は良好で堅緻である。

縄文時代前期の土器(図9-4~17)

縄文時代前期前葉に属する土器で、胎土には繊維の混入がみられるが、それほど顕著ではない。6~8は同一個体で、R L縄文が横位方向に施文されている。9は口縁部破片で、刺突に似た押し沈線文が施文されている。

縄文時代中期の土器(図9-18~26)

23~26は同一個体で、中期末葉の大木10式平行のものである。18~22は時期が不明であるが、縄文時代中期後半に含まれるものと思われる。

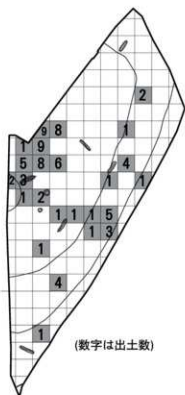


図7 土器破片の出土分布

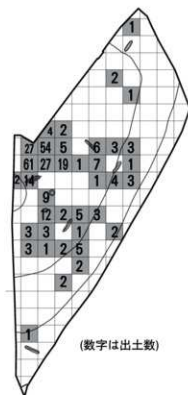


図8 石器(含剥片)の出土分布

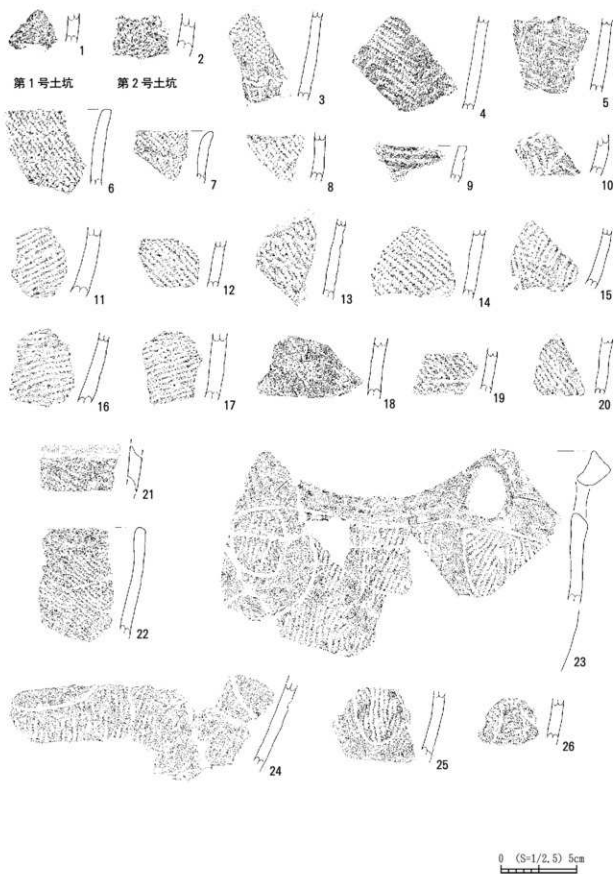


图9 土器

2 石器

石鏃1点、石匙1点、不定形石器4点、Uフレイク4点、磨石2点、敲石2点、台石1点のほか、フレイク213点が出土した。調査区の中央付近に多く出土しているが、第1号土坑の北西側に集中している点では、土器破片の分布と似ている。

石鏃(図11-1) 凹基無茎鏃で、基部の抉りは深い。基部の一端をわずかに欠損している。

石匙(図11-2) 縦型の石匙で、先端部を欠損している。

不定形石器(図11-3~6) 3は石鏃に似た形状で、調整は粗い。4は石匙の刃部破片の可能性もあるもので、縁辺部加工が施されている。5は表裏面に火はじけの痕跡が顕著にみられるもので、表面右側縁には急斜度、左側縁には緩斜度の調整が連続して施されている。6は剥片の一部に調整がみられるものである。

Uフレイク(図11-7・8) 小型の剥片の一部に微細な剥離痕がみられる。

磨石(図11-9・10) 2点とも三角柱状礫を素材としている。9には一側面と長軸の両端部に敲打痕がみられる。石材はデイスイトである。10の側縁には弱い磨痕、長軸片端部には弱い打痕がみられる。石材は砂岩である。

敲石(図11-11・12) 11は小型の柱状礫を素材としているもので、長軸下端部の両側端に弱い敲打痕がみられる。石材は凝灰岩である。12は長軸の一端に大きな剥離痕がみられるもので、端部には敲打痕がみられる。石材はデイスイトである。

台石(図11-13) 人頭大の大きさの礫を素材としているもので、ずんぐりとした形状の両面利用の石器である。片方の面は平坦となっており、全体に滑らかである。弱い敲打痕も若干見られる。反対面の中央付近には連続した深い凹孔がみられる。石材は安山岩である。

3 古銭・鉄製品

古銭(図10-1) III-J-23グリッドの1層から「聖宋元寶」が1点出土した。字体は真書で、外径は24mm、重量は2.8gである。なお、本遺跡の1km北に位置している大池館遺跡からも聖宋元寶が1点出土している。

鉄製品(図10-2) 1点出土した。刀子の破片と思われるが年代は不明である。



図10 古銭・鉄製品

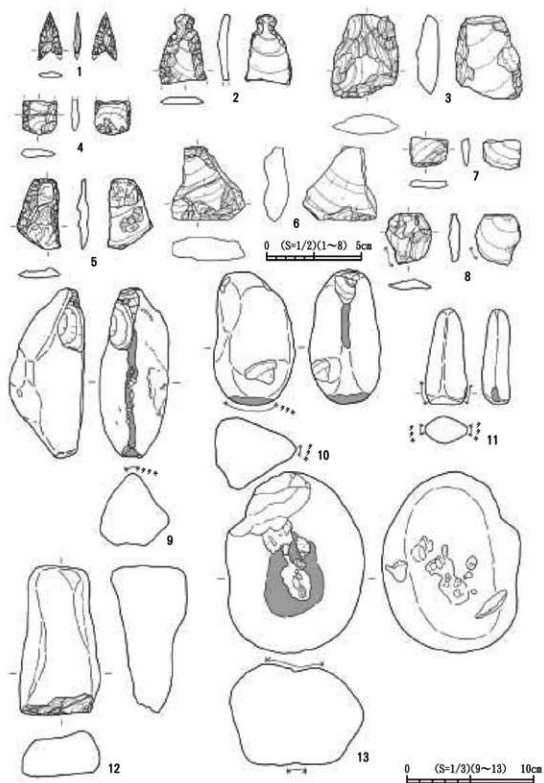


図11 石器

出土遺物観察表

表1 土器観察表

図番号	出土地	層	特徴	時期	備考	整理番号
9-1	SK01	覆土	器面厚減	時期不明	中期?	28
9-2	SK02	覆土	器面厚減 編織痕入	時期不明	前期前葉?	27
9-3	■P26	■	縄文瓦, 結節状所文	早期?	表附遺跡VI群の近辺か	22
9-4	■S23	■	縄文LR+R 羽状	前期前葉		18
9-5	■S23	■	縄文LR+R 羽状	前期前葉		20
9-6	■P29	■	口縁部 縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		6
9-7	■P29	■	口縁部 縄文瓦, 編織痕入	前期前葉	9-6と同一個体	4
9-8	■Q21	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉	9-6と同一個体	14
9-9	■P28	■	口縁部 押引竹管文(割突風) 編織痕入	前期前葉		5
9-10	■P21	■	縄文瓦, 編織痕入, 底部近辺	前期前葉	9-15と同一個体か	9
9-11	■Q23	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		17
9-12	■N26	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		23
9-13	■O23	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		21
9-14	■N26	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		16
9-15	■P21	■	縄文瓦, 編織痕入, 底部近辺	前期前葉	9-10と同一個体	19
9-16	■W20	■	縄文瓦, 器面厚減	前期前葉		11
9-17	■O21	■	縄文瓦, 編織痕入	前期前葉		25
9-18	■S23	■	縄文LR	中期		12
9-19	■Q27	■	縄文LR	中期		26
9-20	■Q26	■	縄文LR	中期		15
9-21	■S23	■	縄文LR	中期		24
9-22	■S23	I	口縁部 縄文LR(縦折板)	中期		3
9-23	■R22	I	流状口縁 磨湾縄文(瓦) 沈線	大木310式併行		1
9-24	■R22	I・■	磨湾縄文(瓦) 沈線	大木310式併行	9-23と同一個体	7
9-25	■R22	I	磨湾縄文(瓦) 沈線	大木310式併行	9-23と同一個体	8
9-26	■Q21	■	磨湾縄文(瓦) 沈線	大木310式併行	9-23と同一個体	10

表2 石器観察表

図番号	種類	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考	整理番号
11-1	石 鏃	■R23	■	3	1.5	0.3	1.1	柱状頁岩	同層無茎。基部の一部欠損。	1
11-2	石 鏃	■Q22	■	4.2	2.8	0.6	6.7	柱状頁岩	刃部磨損。5-1。	2
11-3	不定形石器	■Q22	■	5.2	4.0	1.4	18.4	頁 岩		10
11-4	不定形石器	■Q25	■	2.0	2.2	0.5	2.7	柱状頁岩		4
11-5	リフレイト	■Q21	■	4.3	2.6	0.5	5.0	頁 岩	火ハヅケあり	9
11-6	不定形石器	■P21	■	4.6	4.5	1.2	29.5	頁 岩		5
11-7	リフレイト	■P26	■	1.8	2.4	0.4	2.9	頁 岩		3
11-8	リフレイト	■O22	■	3.0	2.7	0.5	4.5	柱状頁岩		8
11-9	磨 石	■R22	■	15.7	6.9	6.4	620.3	デイサイト	完成。	11
11-10	磨 石	■Q21	■	12.4	7.8	6.6	652.0	砂 岩	完成。三角柱状。一面(面)に深い磨痕。長軸端に鋭打痕。	12
11-11	磨 石	■P21	■	9.0	3.9	2.5	110.0	凝灰岩	長軸端部の高側面に鋭打痕	13
11-12	磨 石	■P21	■	13.8	7.5	7.2	933.2	デイサイト	長軸端に打痕。磨痕弱。	14
11-13	台 石	■L23	■	17.0	13.2	9.8	3144.4	安山岩	焼熱。片面の平面面なめらか。鋭打痕。裏面に凹孔あり。	15

表3 古銭観察表

図番号	種類	グリッド	層位	直径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初 鋳 年	備考
10-1	聖徳天皇	■J23	I	2.4	0.12	2.8	1101	真鍮。完成。

表4 鉄製品一覧表

図番号	種類	グリッド	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
10-2	刀 子?	■K24	■	6.2	1.4	0.5	13.2	時代不明。破損。

第3章 まとめ

- 1 太田野(3)遺跡は平成17年度に発掘調査が行われており、縄文時代の狩猟域と中世の集落跡の一部が発見されている。出土遺物は縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器、中世の珠洲系陶器1点、近世以降の陶磁器や銭貨等があるが、きわめて少量である。
- 2 今回の調査区域は平成17年度に発掘調査できなかった区域である。今回の発掘調査では縄文時代の土坑2基と溝状土坑6基を検出し、縄文時代のある時期に狩猟域であったことが追認された。また、時期不明とはいえ縄文時代の円形土坑の検出は新たな成果である。出土遺物には縄文時代早期と思われる土器や前期、中期の土器・石器が少量あるが、その分布からは調査区西側に当該時期の遺構・遺物が広がっている可能性がある。

参考文献

- ・青森県教育委員会2005『倉越(2)遺跡・大池館遺跡』第389集
- ・青森県教育委員会2006『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』第417集
- ・青森県教育委員会2007『太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡』第427集
- ・青森県教育委員会2008『太田野(2)遺跡Ⅱ・太田(1)遺跡・北野(1)遺跡・北野(2)遺跡』第455集
- ・青森県教育委員会2009『倉越(2)遺跡Ⅲ・太田(2)遺跡』第464集



第5号溝状土坑調査風景（南西→）



第1号土坑セクション（南→）



第1号土坑完掘（西→）



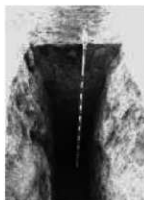
第2号土坑セクション（南→）



第2号土坑完掘（北西→）

写真1 調査風景、土坑

第1号溝状土坑



セクション(北→)



完掘(北→)

第2号溝状土坑



セクション(西→)



完掘(西→)

第3号溝状土坑



セクション(西→)



完掘(西→)

第4号溝状土坑



セクション(西→)



完掘(西→)

第5号溝状土坑



セクション(南西→)

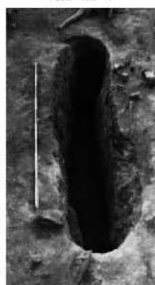


完掘(南西→)

第6号溝状土坑



セクション(北→)



完掘(北→)

写真2 溝状土坑

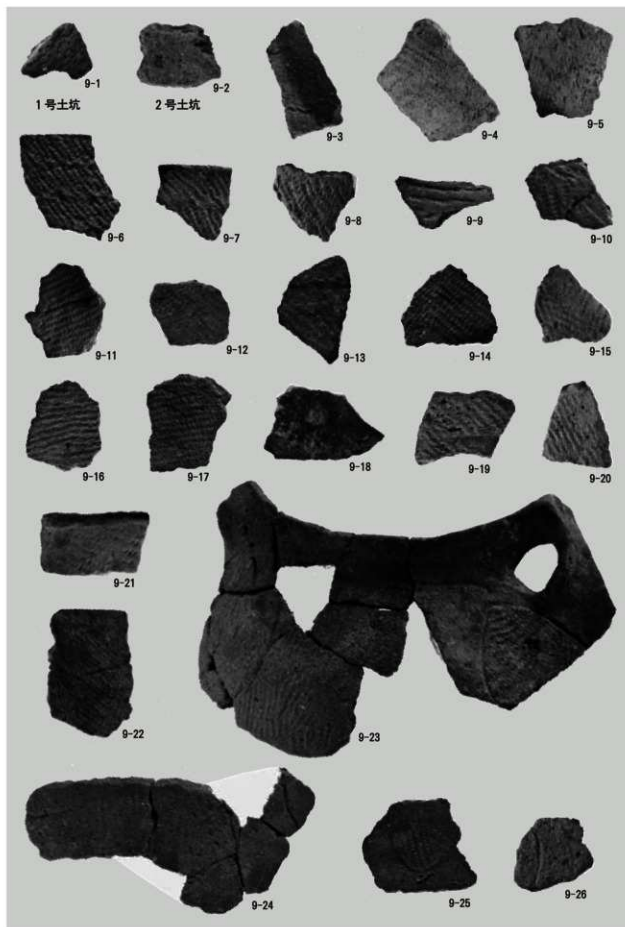
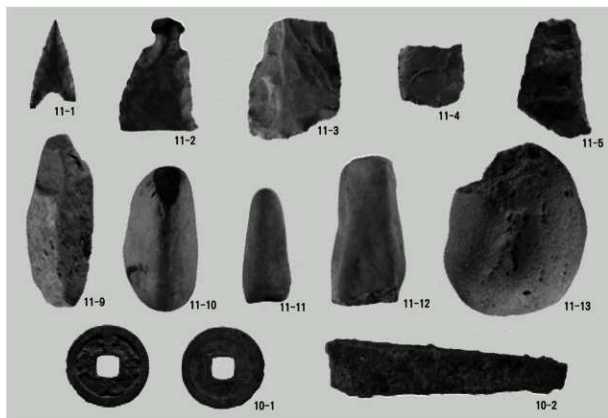


写真3 土器



石器・古銭・鉄製品



調査風景 (遺物の出土状況：Q21・22グリッド)

写真4 石器・古銭・鉄製品、調査風景

報 告 書 抄 録

ふりがな	おおたのかっこさんいせきに							
書名	太田野(3)遺跡Ⅱ							
副書名	一般国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第496集							
編著者名	畠山 昇							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城市天田内152-15 電話017-788-5701							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	平成23年4月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
あまたののくさ 太田野(3) いせき 遺跡	あまたののくさ 青森県上北郡 七戸町字太田野 106-2外	02402	402087	40°41'40"	141°10'10"	20090908 ～ 20090930	1650㎡	一般国道4号 七戸バイパス 建設事業に伴 う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
あまたののくさ 太田野(3) いせき 遺跡	狩猟地 散布地	縄文時代		土坑 2基 溝状土坑 6基		縄文土器・石器 (前期、中期) 古銭(聖元元寶) 鉄製品		
要 約	<p>平成17年度の発掘調査では、縄文時代の狩猟域と中世の集落跡の一部が発見されている。今回の調査は平成17年度に発掘調査できなかった区域が対象となったが、調査の結果、縄文時代のある時期に狩猟域であったことが追認された。また、時期不明とはいえ縄文時代の円形土坑の検出は新たな成果である。出土遺物には早期と思われる土器や縄文時代前期、中期の土器・石器があるが、その分布からは調査区西側に当該時期の遺構・遺物が広がっている可能性がある。</p>							

青森県埋蔵文化財調査報告書 第496集

太田野(3)遺跡Ⅱ

—一般国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2011年4月27日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市新城市天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 東奥印刷株式会社
〒030-0113 青森市第二間屋町三丁目1-77
TEL 017-739-8951 FAX 017-739-8953
